

防コミの歩き方



夜間に備える!

●地域福祉センターを一時避難所として

垂水区の千代が丘防災福祉コミュニティでは、日々の防災訓練はもちろんのこと、慣れ親しんだ地域福祉センターを災害時に有効活用できる体制作りに努めています。地域福祉センターを災害時の地域活動拠点となる一時避難所として運用するためにマンホール汚水管使用簡易トイレの設営や災害時要援護者を対象とした地域福祉センターまでの避難誘導訓練、安全マップの作成などさまざまな訓練に取り組んできました。

地域住民の方々と交えたさまざまな訓練をおこなってきた千代が丘防災福祉コミュニティですが、いついかなる時に発生するかわからない災害に備えて今回、地域福祉センターを拠点とした夜間訓練をおこないました。

初めての試みである今回の訓練はどのようなものだったのでしょうか？

●夜間訓練

当日は、日曜日18時に開始という時間帯にもかかわらず、130人以上の方々が足を運んでおられました。

訓練では、要援護者を意識した夜間避難誘導訓練、避難されて来た方々への安全・健康チェック、その後、地域福祉センターホールにて、船岡防災長のあいさつに始まり、カセットボンベ式発電機の説明、停電時を想定した暗闇の中での発電機作動訓練、投光器の点灯、ツナの油漬けの缶詰を使ってのロウソク作りをおこないました。続いて「夜間の災害特徴と避難対策について」人と防災未来センター研究主幹である宇田

川真之先生の講話、垂水消防署署員による防災学習、炊き出し訓練など盛りだくさんの内容となりました。

●さらなる防災意識向上に向けて

「年に一回は続けて開催してほしい」（70歳代女性）。「日頃から防災意識を持つことが大切だと改めて思った」（40歳代女性）。「夜間訓練で、昼間は気にならなかった勾配があることに気づいた」（50歳代女性）。「ツナの油漬け缶詰で、ロウソク作りができるとは思ってもみなかった」（60歳代女性）。この他にもたくさんの意見をいただきました。このような意見の数々は、千代が丘防災福祉コミュニティが地域の方々のつながりや防災意識を高めることに非常に貢献していること、市民の方々から期待されていることの紛れもない証です。今後も千代が丘防災福祉コミュニティから目が離せません。

（垂水消防署 明石将希）

